

# 令和5年度第1回総合教育会議次第

日 時 令和5年7月20日(木) 午後3時00分～  
場 所 ひかりプラザ2階 203・204号室

## 1 開会

## 2 協議・調整事項

- (1) 大きく育てよう 国分寺愛 ～新たな国分寺市史編さん事業のスタートに  
当たって～

…資料1-1	ふるさと文化財課
…資料1-2・1-3・1-4	学校指導課
…資料1-5	市史編さん担当
…資料1-6	市政戦略室

## 3 その他

## 4 閉会

## 武蔵国分寺跡史跡指定100周年記念事業にかかる 児童・生徒に向けての取組について

令和4年は、武蔵国分寺跡の史跡指定100周年の節目の年であり、史跡の歴史的意義を改めて認識し後世に伝えていくため、市をあげて多くの事業に取り組んできました。

これまでも市立小学校では、社会科副読本「わたしたちの国分寺」等により国分寺市の歴史を学ぶとともに、6学年の校外学習では史跡地及び武蔵国分寺跡資料館に訪れ、実際に古代の遺跡・遺物に触れていますが、昨年度の全市をあげた100周年記念事業により、これまで学校等で学んできた歴史が実際の自分たちの生活のなかにも引き継がれているということを実感する機会となったと思います。

子どもたちが、教科書やテレビで見る奈良の世界遺産や国宝などが、自分たちのまちにも繋がっていることを知り、新たな気持ちで歴史に向きあえていることと思います。

自分たちも歴史の流れのワンシーンに存在し、その流れを繋いでいく役割を担っているということ、そして、そのことが、まちや自分自身のアイデンティティを作っているのだということ子どもたちも感じるようになった1年になったと思います。

### 1. 学校への通知

- ①オープニングイベント（4/29）、記念講演会（10/22）の開催に合わせ、教育長より、全中学生に向けたメッセージを全員へ配布
- ②各学校へ100周年記念ロゴマーク、キャッチフレーズの積極的利用を依頼

### 2. 各学校の取組

- ①オープニングイベントにおける中学生合同バンドの演奏
- ②各学校給食における天平メニューの提供及び小学校給食における七重塔パンの提供
- ③各小学校6年生の校外学習全校参加
- ④各学校における学習発表会等

### 3. 子ども向けイベント

- ①謎解きクイズラリー
  - ・1回目は史跡地全体を巡る形、2回目は資料館内の展示を調べる形で実施
- ②ぬりえ
  - ・3回実施。8月は国分寺青年会議所主催の「ぶんじ子どもフェスタ」に出店
- ③レプリカ作成
  - ・2回実施
- ④拓本教室
  - ・2回実施

⑤こくぶんじジュニア歴史検定

- ・小学5・6年生対象。成績優秀者2人を、10月22日の100周年記念講演会の式典内において表彰した。

4. 気運醸成事業

①100周年記念ロゴマーク及びキャッチフレーズをあしらった缶バッジを作成し、子どもたちが参加したイベント時に配布した。

②国分寺駅及び西国分寺駅周辺の街灯にバナーフラッグ計 207 枚を掲出し、通行時の子どもたちにも100周年の意識づけをした（期間：令和4年9月16日～令和5年3月10日）。

# 令和4年度 武蔵国分寺跡史跡指定 100 周年記念事業の報告について

ふるさと文化財課

令和4年度は、大正11年10月12日に武蔵国分寺跡が史跡指定されてから100年目の節目の年度となることから、ふるさと文化財課では、4月29日のオープニングイベントを皮切りに数多くのイベント等を行ってまいりました。

史跡指定100周年記念事業は、市をあげての取り組みであるため、市政戦略室をはじめ多くの関係部署が関わってきておりますが、ここではふるさと文化財課が主管課もしくは大きく関わってきた事業についてご報告いたします。

	事業名
1	武蔵国分寺跡史跡指定100周年記念オープニングイベント
2	おたかの道湧水園無料開放(オープニングイベント特別開放)
3	ゴールデンウィーク子どもイベント「なぞときビンゴ」
4	恋ヶ窪公民館歴史講座「国登録有形文化財となった沖本家住宅」
5	国分寺市ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座, もとまち公民館連続歴史講座
6	国分寺市新庁舎建設に伴う発掘調査現場見学会
7	文化財資料展示室のリニューアル
8	市外文化財めぐり(甲斐国分寺跡)
9	夏休み子どもプログラム「ぬりえ」
10	特別企画展「史跡武蔵国分寺跡100年のあゆみ」
11	市史等の特別価格販売
12	夏休み子どもプログラム「レプリカをつくろう」
13	史跡指定100周年記念缶バッジの作成
14	史跡指定100周年記念のぼり旗, 横断幕, 掲示シールの作成及び掲出
15	夏休み子どもプログラム「拓本教室」
16	ぶんじ子どもフェスタ「史跡ぬりえ」
17	武蔵国分寺跡資料館・文化財資料展示室・東京都公文書館 3館展示スタンプラリー

18	こくぶんじジュニア歴史検定
19	バナーフラッグの掲出
20	令和3年度に史跡指定 100 周年を迎えた諸国国分寺跡のパネル展示
21	むさしのガーデン紀行 オープンカフェ「ミニガイド」
22	市内文化財めぐり
23	おたかの道湧水園無料公開
24	幡の作成
25	秋の子ども向けイベント「拓本教室」
26	秋の子ども向けイベント「歴史なぞときクイズラリー」
27	秋の子ども向けイベント「レプリカをつくろう」
28	東京都公文書館との共催企画展「史料に見る国分寺のあゆみ～江戸時代の村々～」
29	武蔵国分寺跡史跡指定 100 周年記念講演会
30	本多公民館歴史講座(第1回)「本多雖軒と国分寺の地域医療」
31	本多公民館歴史講座(第2回)「玉川上水と国分寺市内の分水」
32	観光考古学会パネルディスカッション「武蔵国分寺跡の保存と観光活用」
33	武蔵国分寺跡史跡指定・住田正二先生生誕 100 周年記念シンポジウム「武蔵国分寺の造営と文字瓦」
34	光公民館歴史講座「二五穴と胎内掘の技術」
35	令和 4 年度文化講座「思いを描く天平の華 武蔵国分寺のはなし」(市民生活部文化振興課主管課事業)
36	第 48 回東京都遺跡調査・研究発表会
37	並木公民館歴史講座「玉川上水と『上水記』」

<b>1</b>	<b>武蔵国分寺跡史跡指定 100 周年記念オープニングイベント</b>
日時	令和4年4月29日（金・祝） 【第一部】9:00～11:30, 【第二部】13:00～15:00
場所	いずみホール
趣旨	史跡指定100周年のこけら落としとして、式典、講演会及びイベントを行い、令和4年が史跡指定100周年という節目の年であることを広く市民に周知し、史跡地への理解を深めるとともに身近に感じてもらう。

**実施報告**

当日は雨天のため、当初予定していた午後の史跡地でのイベントはいずみホールでの実施となり、会場の都合により入場の制限をせざるを得なかったが、できる限り多くの市民に入場していただき、来場者にとっては満足度の高いイベントとする事ができた。

◆イベント概要

1 ステージイベント

【午前の部】

- ①時間：午前10時～午前11時30分
- ②内容：近江俊秀文化庁主任文化財調査官による記念講演  
演題「史跡武蔵国分寺跡の価値と保存について」

【午後の部】

- ①時間：午後1時～午後3時
- ②内容：・市観光大使の土屋礼央氏と市職員のトークセッション  
・太鼓芸能集団「鼓童」の演奏  
・市立中学生合同バンドの演奏

2 参加者 延べ約555人

招待者	一般参加者		市応援職員	東経大 (地域貢献)
	午前	午後		
34	185	296	33	7

※午後の部については、Bホール（定員80人）も開放し、傍聴席を確保した。

3 アンケート結果

参加者の年齢層（回答者149人）

（人）

中学生以下	～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
1	3	12	13	28	41	38	13

講演会の満足度（回答者154人）

（人）

とても満足	満足	普通	やや不満	不満	無回答
79	55	5	1	1	13

4 物産展

- ①時間：午前10時～午後3時30分

②会場：国分寺市立いずみホール前広場及びいずみホールロビー

③内容：姉妹・友好都市である、佐渡市、飯山市及び鳩山町等の物産品等の販売



**2 おたかの道湧水園無料開放（オープニングイベント特別開放）**

日時	令和4年4月29日（金・祝）
場所	おたかの道湧水園
趣旨	オープニングイベントと合わせておたかの道湧水園を無料開放することにより、より市民の文化財に対する関心を高める相乗効果を狙う。

**実施報告**

当日は終日雨天であったため、オープニングイベントの午後の部はいずみホールでの開催となったが、通常休日の約2倍の202人の方が来場した。

**3 ゴールデンウィーク子どもイベント「なぞときビンゴ」**

日時	令和4年4月30日（土）～5月8日（日）
場所	史跡武蔵国分寺跡（僧寺，尼寺，東山道武蔵路），武蔵国分寺跡資料館
趣旨	ゴールデンウィーク期間中の子ども向け普及イベントの一環として、子どもたちが武蔵国分寺に関連したクイズを解くことにより、楽しみながら歴史や文化財について学び理解を深めていくことを目的とする。

**実施報告**

今回のクイズラリーは、史跡地を巡ってもらうことを目的として、クイズは史跡地内を歩かなければ解けない形式とし、子どもたちは半日をかけ史跡地をめぐるビンゴ形式のクイズを解いた。正解者には、シールやクリアファイルを景品として渡した。

イベントはおおむね好評であり、開園時からクイズに挑む親子や、偶然周辺の散策に訪れた親子が参加する姿も見られた。

**◆参加人数** (人)

	4月	5月							計
	30(土)	1(日)	3(火・祝)	4(水・祝)	5(木・祝)	6(金)	7(土)	8(日)	
シール(1ビンゴ以上)	10	4	6	15	12	0	4	15	66
クリア(全問クリア)	10	2	4	12	8	0	2	6	44

**4 恋ヶ窪公民館歴史講座「国登録有形文化財となった沖本家住宅」**

日時	令和4年6月4日（土） 14:00～																										
場所	恋ヶ窪公民館																										
趣旨	昭和初期に建てられ、令和3（2021）年に国の登録有形文化財となった沖本家住宅は、設計当初の優れた造形を持つとともに、所有者が長年建物を大事にしてきたことから良好な状態で現在まで残されている。当該建物の調査で判明したことを市民へ報告することにより、史跡地と同様に文化財への関心と保存の気運を高める。																										
実施報告	<p>市の文化財調査専門員として、当該建物の調査に当初より関わってこられた志岐祐一氏による講演を行った。現在カフェとして運営されている沖本家住宅は、多くのメディアでも紹介されているため市民等の関心も高く、定員35人以上の来場があった。当日は、メイン会場の他サブ会場を2室用意し、48人からアンケートを回収した。</p> <p>◆講座概要</p> <p>①講師：志岐祐一氏（文化財調査専門員）            ➤ 「国登録有形文化財となった沖本家住宅」</p> <p>②年代</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>10代</th> <th>20代</th> <th>30代</th> <th>40代</th> <th>50代</th> <th>60代</th> <th>70代</th> <th>80代</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>3</td> <td>48</td> </tr> </tbody> </table> <p>③満足度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>37</td> <td>10</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計	1	0	3	7	11	11	12	3	48	満足	やや満足	やや不満	不満	37	10	0	1
10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計																			
1	0	3	7	11	11	12	3	48																			
満足	やや満足	やや不満	不満																								
37	10	0	1																								
<b>5</b>	<b>国分寺市ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座，もとまち公民館連続歴史講座</b>																										
日時	令和4年6月15日（水）から11月16日（水） 計7回 各回 10:00～12:00																										
場所	もとまち公民館及び武蔵国分寺跡（僧寺，尼寺，東山道武蔵路）																										
趣旨	ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座を、史跡指定100周年の記念事業としてもとまち公民館が行う連続歴史講座と併せて行うことにより、より多くの愛護ボランティアを養成し市の文化財の魅力を発信していく。																										
実施報告	<p>史跡指定100周年記念事業としてもとまち公民館が行う歴史講座（第1回～第6回）と併せて実施することにより多くの参加者を募ることができた。講師は市の学芸員のほか、周辺の遺跡に造詣の深い有識者2名と東京都公文書館職員1名を招き、それぞれ専門的な見地からの講演を行い、市の文化財の魅力を伝えることができた。第7回（11/16日）では愛護ボランティアとして24人に認定証を交付した。</p> <p>また、本連続歴史講座（全6回）と、後述する東京都遺跡調査・研究発表会の公開講演については、講演録を残し、記録集を刊行した。</p> <p>◆講座受講者数：43人（申込者数：72人），うち愛護ボランティア養成講座受講者28人</p> <p>◆認定証交付者数：24人</p> <p>◆講座内容</p>																										



回数	時期	講師	内容
第1回	6月15日(水)	野口 淳氏 (金沢大学)	国分寺市域の地形形成と古代の環境
第2回	7月6日(水)	増井有真 (ふるさと文化財課)	東山道武蔵路研究の現状と課題
第3回	7月27日(水)	中山真治氏 (日本考古学協会)	野川流域の旧石器・縄文文化
第4回	9月7日(水)	依田亮一 (ふるさと文化財課)	武蔵国分寺調査・研究抄史
第5回	10月5日(水)	西木浩一氏 (東京都公文書館)	武蔵国分寺跡の史跡指定とその背景
第6回	10月19日(水)	渡邊典子 (ふるさと文化財課) 文化財愛護ボランティア	史跡武蔵国分寺跡を歩く(フィールドワーク)
第7回	11月16日(水)	早川勝義 (ふるさと文化財課)	国分寺市の文化財保護の歴史とボランティア・今後の活動について(認定証交付式)

<b>6</b>	<b>国分寺市新庁舎建設に伴う発掘調査現場見学会</b>
----------	------------------------------

日時	令和4年6月26日(日)
----	--------------

場所	新庁舎建設用地(泉町2-102-9)
----	--------------------

趣旨	令和4年3～9月に行った新庁舎建設工事に伴う発掘調査の現場を公開することにより、新庁舎建設事業の周知を行うとともに、発掘調査で見つかった様々な時代の遺構、地層の堆積状況を公開し、国分寺市の歴史を市民等に理解していただく機会とする。
----	---

実施報告
------

泉町地区では、これまでの発掘調査で旧石器・縄文時代の遺跡や、奈良・平安時代の武蔵国分寺を支えた庶民たちが暮らす堅穴住居等が多数確認された場所で、調査地点の西側には東山道武蔵路が縦貫している。また、昭和時代には旧国鉄の中枢的な教育機関としての役割を担った中央鉄道学園が所在した。

発掘調査現場には、当該地区の歴史的な変遷をパネルにして展示した。また、見学にあたっては「鉄道学園関連遺構見学ゾーン」「関東ローム層観察ゾーン」「縄文時代遺構ゾーン」「出土品展示ブース」に見学箇所を分け、来場者の興味に沿った行事を開催した。

なお、隣接する都立多摩図書館では、令和4年6月3日～8月31日を会期として企画展「鉄道開業150周年記念 子どもの本と時刻表でたどる鉄道の歴史展」を開催していたが、会期中の7月8日～8月31日まで、新庁舎建設に伴う発掘調査の速報と中央鉄道学園時代の写真、さらに平成24年に行われた多摩図書館建設に伴う発掘調査の概要等を市教育委員会がパネル化し、企画展に添えて展示した。

◆来場者数 315人

◆アンケート結果(回答202人)

①年代							
中学生以下	～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代

30	10	18	44	40	33	21	6
----	----	----	----	----	----	----	---

②満足度

大変満足	満足	普通	やや不満	不満
94	87	16	2	0



<b>7</b>	<b>文化財資料展示室のリニューアル</b>
日時	令和4年7月5日（火）～7月22日（金）（修繕による閉館期間）
場所	文化財資料展示室
趣旨	資料展示室の照明をLED化するとともに、展示物及びパネル等のリニューアルを行い、史跡指定100周年にあたり資料館を訪れる来館者の史跡・歴史への興味及び理解を深める。
実施報告	
<p>7月5日（火）から22日（金）まで臨時休館し改修作業を行った。なお、広報は7月1日号市報及びHPにて行った。</p> <p>◆リニューアル内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・照明のLED化</li> <li>・展示物の入れ替え</li> <li>・展示パネルの更新</li> </ul> <p>◆修繕費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・822,800円</li> </ul>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
<b>8</b>	<b>市外文化財めぐり（甲斐国分寺跡）</b>
日時	令和4年7月23日（土） 7:30～17:00
場所	甲斐国分寺跡
趣旨	大正11年に武蔵国分寺跡と同時指定された甲斐国分寺跡（山梨県笛吹市）を訪れ、武蔵国以外の国分寺跡や、関連する古代遺跡・文化財を見学することで歴史に関する見聞を広めるとともに、武蔵国分寺跡への理解を深める。
実施報告	

バスツアーにより、武蔵国分寺跡と同様に令和4年に史跡指定100周年を迎える甲斐国分寺跡を訪れた。定員30人を超える応募があったが、実施日とコロナの第7波が重なったことで直前のキャンセルが相次ぎ、結果、当日参加者は21人であった。

他のイベントとの日程調整から猛暑期の開催となったが、笛吹市職員（学芸員）の解説にはイヤホンマイクを活用し、音声が聞き取りやすく好評であったほか、午後に釈迦堂遺跡博物館で行った土偶作りワークショップも短い時間で制作でき、参加者の満足感が高かった模様である。

◆見学コース

①甲斐国分寺→②石船神社→③護国山国分寺→④金川霞堤→⑤経塚古墳→⑥道祖神場→⑦甲斐国分尼寺→⑧釈迦堂遺跡博物館（展示視察及び土偶づくり体験）

◆アンケート結果（計21人）

①年代

10代以下	20代	40代	50代	60代	70代	80代以上
2	1	3	1	5	8	1

②満足度

大変満足	満足	普通	やや不満	不満
14	5	1	0	0

③楽しかった点

甲斐国分寺跡周辺の散策	11
釈迦堂遺跡博物館の展示	6
土偶づくり体験	7
その他	経塚古墳(2)



9	夏休み子どもプログラム「ぬりえ」
日時	令和4年7月23日（土）～9月4日（日）
場所	武蔵国分寺跡資料館
趣旨	武蔵国分寺跡資料館を訪れた子どもたちに展示の見学だけではなく、古代瓦・仏像、縄文土器などの展示品の「ぬりえ」制作を通じて、文化財学習を深めていただく。
実施報告	
夏休み子どもプログラムのイベントの一環として、9種類のぬりえを用意し希望する子どもたちに渡した。持ち帰りを主に想定していたが、希望があれば、おたかの道湧水園内でも作業できるスペースを用意	

した。期間内に園内で作業した子どもは計 15 人であった。また作品は写真に撮り、資料館内のデジタルサイネージで掲示した。

<b>10</b>	<b>特別企画展「史跡武蔵国分寺跡 100 年のあゆみ」</b>
日時	令和 4 年 7 月 30 日（土）～令和 5 年 2 月 12 日（日）
場所	武蔵国分寺跡資料館
趣旨	大正 11 年に史跡指定された武蔵国分寺跡の保護・調査・活用のあゆみについての企画展示を行い、史跡武蔵国分寺跡への理解を深め未来へ継承する場とする。

**実施報告**

大正 11 年に史跡指定を受けた際の貴重な行政資料の展示の他、これまでの発掘等の調査の成果や現在に続く活用の経緯について展示を行った。また、併せて武蔵国分寺跡と同時期（大正 11 年）に国指定を受けた 8 ヶ国の国分寺跡（伊勢、三河、甲斐、常陸、陸奥、備中、土佐、筑前）の紹介を行った。

なお、企画展示で作成したパネルはリーフレットとして再編集し、配架及び関係部署へ配布した。

◆期間内来館者数：9,265 人

	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	計
開催日	2	26	26	26	26	24	24	11	165
来園者	88	623	1,010	3,434	2,667	570	583	290	9,265

※開催日は、令和 4 年 7 月 30 日から令和 5 年 2 月 12 日までの計 165 日






<b>11</b>	<b>市史等の特別価格販売</b>
日時	令和 4 年 7 月 30 日（土）～令和 5 年 2 月 12 日（日）
場所	武蔵国分寺跡資料館 他
趣旨	史跡指定 100 周年の記念事業の一環として、『国分寺市史（上・中・下巻）』及びそれに関連する刊行物を割引価格のセット販売を行い、刊行物の販売を促進することで、文化財・歴史学習の機会向上を目指す。

**実施報告**

特別企画展「史跡武蔵国分寺跡 100 年のあゆみ」の開催時期に合わせ、市史等のセット販売を行った。

◆セット内訳及び期間内の販売冊数

- ・国分寺市史セット（上巻、中巻、下巻、ふるさと国分寺のあゆみ）・・・24セット
- ・国分寺市資料集セット（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ）・・・11セット
- ・国分寺市資料目録セット（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）・・・1セット

12	<b>夏休み子どもプログラム「レプリカをつくろう」</b>
	令和4年8月6日（土） ①10:00～，②11:00～，③13:00～，④14:00～
場所	おたかの道湧水園園庭
趣旨	100周年記念事業の子ども向け普及イベントの一環として、将来の担い手である子どもたちが瓦や土器・石器等のレプリカを制作するワークショップを通じて、国分寺の歴史と文化を身近に感じ、史跡への理解を深められることを目的とする。
実施報告	
<p>各回5人の定員（計20人）により、シリコンゴム製の瓦や土器・石器の型枠に液剤を流し込み、固着させた後に思い思いの色付けをすることによってオリジナルのレプリカを作成した。</p> <p>猛暑時季での開催であったため、暑さ対策、虫刺され対策及びシリコン樹脂の硬化スピードが速いこと等の懸念があったが、ボランティアによる臨機応変な対応もありスムーズに事業が実施できた。</p> <p>◆型の種類：尖頭器、土偶、文字瓦、鏡瓦、鬼瓦（計5種類）</p> <p>◆参加者数：20人</p>	
 	
13	<b>史跡指定100周年記念缶バッチの作成</b>
日時	令和4年8月31日（水）（納期）
趣旨	缶バッチの作成・配布により、史跡国指定100周年の気運醸成を図る。
実施報告	
<p>市政戦略室で募集・決定した史跡指定100周年記念事業ロゴマーク及びキャッチフレーズをあしらった缶バッチを3,000個作成した。記念講演会等のイベント時に配布し、気運醸成を図るとともにノベルティグッズとして活用した。</p> <p>◆作成数：3,000個（市政戦略室へ1,000個）</p>	
	
14	<b>史跡指定100周年記念のぼり旗、横断幕、掲示シールの作成及び掲出</b>
日時	令和4年8月26日（金）～令和5年3月31日（金）
場所	【掲示シール】市役所本庁舎 【横断幕】ひかりプラザ，いずみホール，新庁舎建設予定地，武蔵国分寺跡資料館
趣旨	武蔵国分寺跡が国史跡指定100周年を迎えることを市民及び市外来訪者等に広くPRするため

	めの媒体として横断幕，掲示シール等を作成及び掲出する。
<b>実施報告</b>	
<p>史跡指定 100 周年の気運醸成のため，のぼり旗等を作成し掲出した。</p> <p>◆のぼり旗：30 枚作成，イベント時に掲出し気運醸成を図った。</p> <p>◆横断幕：ひかりプラザ，いずみホール，新庁舎建設予定地，武蔵国分寺跡資料館にて掲出した。</p> <p>◆掲示シール：本庁舎 1 階玄関の柱に巻き付ける掲示シールを作成・設置した。</p> <p>◆印刷製本費：453,200 円（缶バッジ，100 周年記念講演会チラシ・ポスター作成を含む）</p>	
 	
<b>15</b>	<b>夏休み子どもプログラム「拓本教室」</b>
日時	令和 4 年 8 月 20 日（土） 午前：10:00～，午後：13:00～
場所	おたかの道湧水園園庭
趣旨	100 周年記念事業の子ども向け普及イベントの一環として，将来の担い手である子どもたちが文字や文様が描かれた古代瓦の拓本を採ることで，国分寺の歴史と文化を身近に感じ，史跡への理解を深められることを目的とする。
<b>実施報告</b>	
<p>和紙を瓦の上に置き，クーピーペンシルで文字を浮き上がらせる手法により行う拓本教室である。体験前には地図を添付した資料を配布し簡単な説明を行い，完成した拓本はハガキサイズの台紙に貼り作品として持ち帰ってもらった。当日は雨天であったため子どもの参加は少数であった。</p> <p>◆拓本素材数：8 種類</p> <p>◆参加人数：25 人 （うち子ども 8 人）</p>	
 	
<b>16</b>	<b>ぶんじ子どもフェスタ「史跡ぬりえ」</b>
日時	令和 4 年 8 月 27 日（土） 10:00～17:00
場所	都立武蔵国分寺公園

趣旨	青年会議所が実施する「ぶんじ子どもフェスタ 2022」に参加することにより、より多くの市民等に史跡指定 100 周年を周知する。
----	--

**実施報告**

ぶんじ子どもフェスタは、「体験できる」「挑戦できる」をテーマに青年会議所が主催となり開催したイベントである。ふるさと文化財課では小さい子どもどもも参加できる「ぬりえ」の体験ブースを設置することにより本イベントに参加した（イベント内容は、湧水園内で行っていたものと同じ）。

当日は、イベント自体の参加者が多かったこと、ぬりえがイベント趣旨とも合っていたことから、大変な賑わいとなり、213 人の子どもたちにぬりえを楽しんでもらった。来場者のほとんどは親子連れであったためブースに集まった人数としてはのべ 500 人を超えていたと思われる。

◆ぬりえ参加者：213 人



<b>17</b>	<b>武蔵国分寺跡資料館・文化財資料展示室・東京都公文書館 3館展示スタンプラリー</b>
-----------	---

日時	令和4年8月27日（土）～令和5年2月12日（日）
----	---------------------------

場所	武蔵国分寺跡資料館，文化財資料展示室，東京都公文書館
----	----------------------------

趣旨	特別企画展「史跡武蔵国分寺跡 100 年のあゆみ」を開催中の武蔵国分寺跡資料館，常設展示を史跡指定 100 周年を機に全面的にリニューアルした文化財資料展示室，東京都公文書館との共催企画展「資料に見る国分寺のあゆみ～江戸時代の村々～」の各展示室へ、より多くの市民等を誘導することを目的としたスタンプラリーを実施する。
----	--

**実施報告**



3 館に史跡指定 100 周年記念ロゴマーク及び教育推進マークのスタンプ及び台紙を設置し、3 カ所のスタンプが押された方にはトートバックを景品として渡した（先着 300 人）。なお、複数回にわたり史跡地等を訪れていただけるよう 3 館の実施期間は異なるものとした。



<b>18</b>	<b>こくぶんじジュニア歴史検定</b>
-----------	----------------------

日時	令和4年9月3日（土） 13:30～14:30
----	----------------------------

場所	C o c o b u n j i プラザ リオンホール
----	------------------------------

趣旨	市内在住在学习の子どもたちが国分寺の歴史や文化財について学び理解を深めることにより、文化財を身近に感じ国分寺に住んでいることを誇りに思えるよう郷土愛を育むことを目的とする。
実施報告	<p>問題数は30問とし、正解数が25問以上をゴールド、24～11問をシルバー、10問以下をブロンズとして認定した。事前に出題参考文献を提示することにより事前の学習が円滑に行えるよう配慮した。</p> <p>なお、正解数が25問以上のゴールド認定者の2人を、10月22日に行われた史跡指定100周年記念式典内において表彰した。</p> <p>◆対象者：市内在住在学习の小学5・6年生</p> <p>◆受験者数：受験者数10人（申込者数14人）</p> <p>◆認定内訳：ゴールド2人、シルバー8人</p>
	
<b>19</b>	<b>バナーフラッグの掲出</b>
日時	令和4年9月16日（金）～令和5年3月10日（金）
場所	国分寺駅北口ロータリー，国分寺駅南口商店街，西国分寺駅南口ロータリー
趣旨	バナーフラッグを人通りの多い市内3カ所の駅前地域に掲出することにより武蔵国分寺跡史跡指定100周年の気運醸成を図る。
実施報告	<p>100周年記念ロゴマーク及びキャッチフレーズをあしらったバナーフラッグ計207枚を駅前ロータリー及び商店街に掲出し、史跡指定100周年の気運を醸成した。</p> <p>◆掲出バナーフラッグ数</p> <p>【国分寺駅北口】63枚</p> <p>【国分寺駅南口】114枚</p> <p>【西国分寺南口】30枚</p> <p>◆委託料：1,065,900円（バナーフラッグ作成，取付，撤去委託）</p>
	
<b>20</b>	<b>令和3年に史跡指定100周年を迎えた諸国国分寺跡のパネル展示</b>
日時	令和4年10月5日（水）～14日（金）
場所	Cocobunjiプラザ ホワイエ
趣旨	昨年度史跡指定100周年を迎えた国分寺跡のパネル展示を行い、今年度の武蔵国分寺跡史跡指定100周年の気運醸成を図る。
実施報告	<p>武蔵国分寺跡の史跡指定の前年である大正10年史跡指定され、令和3年に史跡指定100周年を迎えた諸国国分寺跡（下野，相模，美濃，播磨，出雲，石見，伊予，大隅）を紹介するパネル展示をCocobunji</p>



unj i プラザにて行い、10月22日の記念講演会に向けた気運醸成を図った。



<b>21</b>	<b>むさしのガーデン紀行 オープンカフェ「ミニガイド」</b>
日時	令和4年10月9日（日） 10:00～16:00
場所	都立武蔵国分寺公園
趣旨	多くの市民等が集まるイベントと共催することにより、より多くの市民等に史跡指定100周年の意義を周知する。
実施報告	
<p>むさしの・ガーデン紀行が行う「オープンカフェ&amp;パネル展示」において、史跡地のミニツアー及び武蔵国分寺の歴史にかかるパネル展示及び史跡の概要にかかる解説を行った。</p> <p>◆参加人数：19人</p> <p>◆解説者：ふるさと文化財課 増井文化財保護係長</p>	
<b>22</b>	<b>市内文化財めぐり</b>
日時	令和4年10月10日（月・祝） ①12:15～15:30（ふるさと文化財課担当） ②12:45～16:00（観光まちづくり協会担当）
場所	【見学コース】東山道武蔵路，国分寺薬師堂・木造薬師如来像，武蔵国分寺跡，おたかの道湧水園
趣旨	市民等が国分寺市内にある文化財をめぐり，文化財に触れ，親しみ，理解を深めることによって，文化財の保護普及を促進させる。
実施報告	
<p>平安時代末に造られた国指定重要文化財「木造薬師如来坐像」のご開帳に合わせ，史跡武蔵国分寺跡周辺の文化財を見学ポイントに設定し，市職員による説明を行った。当日は小雨が降る時間帯もあり天候は良くなかったが，①②ともに当日キャンセルなく募集定員で実施した。なお，①はふるさと文化財課，②は観光まちづくり協会（市政戦略室）が主管課となって実施した（①②ともに行程は同じ）。</p> <p>◆見学コース</p> <p>①東山道武蔵路（泉町地区）→②東山道武蔵路（旧四小）→③国分寺薬師堂（木造薬師如来坐像）→④国分寺仁王門→⑤国分寺楼門→⑥国分僧寺跡（講堂跡・金堂跡・七重塔跡）→⑦真姿の池湧水群→</p>	

<p><b>⑧おたかの道湧水園</b></p> <p>◆参加人数</p> <p>①（ふるさと文化財課）11人</p> <p>②（観光まちづくり協会）10人</p>	
<b>23</b>	<b>おたかの道湧水園無料公開</b>
日時	令和4年10月12日（水）～11月6日（日）
場所	おたかの道湧水園（武蔵国分寺跡資料館）
趣旨	史跡指定100周年の記念事業として、史跡指定日である10月12日から教育7Days最終日の11月6日まで計23日間おたかの道湧水園を無料開放し、史跡指定100周年の記念事業とする（例年は10/18のみ無料公開）。
実施報告	
<p>今年度は史跡指定100周年を記念し、長期間の無料開放を行った。年度当初から様々なイベントを行ってきたことや7月30日から企画展を行っていたこと等もあり、連日多くの来園者があった。特に11月3日は史跡地において文化交流事業が行われたこともあり、615人の来園者があった。</p> <p>◆期間内来園者数：4,029人</p>	
<b>24</b>	<b>幡の作成</b>
日時	令和4年10月31日（月）（納期）
場所	史跡武蔵国分寺跡
趣旨	古代の法要の際に掲げられていた幡のレプリカを作成することにより、往時の国分寺を想起させ、史跡指定100周年の気運醸成を図る。
実施報告	
<p>幡は護国を祈願する法要の際に掲げ場を飾ったものである。11月6日の文化交流事業の際に掲げ、史跡指定100周年の気運醸成を図ることができた。</p> <p>◆作成委託料：880,000円</p>	
	
<b>25</b>	<b>秋の子ども向けイベント「拓本教室」</b>
日時	令和4年10月16日（日） 午前：10:00～、午後：13:00～
場所	おたかの道湧水園園庭

趣旨	100周年記念事業の子ども向け普及イベントの一環として、将来の担い手である子どもたちが国分寺の歴史と文化を身近に感じ、史跡への理解を深められることを目的とする。
----	--

実施報告	<p>実施内容は夏休み子どもプログラムと同様のものであるが、当日は気候も良く多くの市民及び子ども達が参加した。</p> <p>◆参加人数：57人（うち子ども18人）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>拓本教室</b> 瓦に刻まれた文字をよんでみよう</p>  <p>今からおよそ1300年前、国分寺市のある御原郡は、埼玉縣と神奈川県の一部を合わせて設置された。おあまりの「瓦」とよばれる瓦に刻まれている文字は、国分寺市を造るためには、とても多く多くの瓦を必要としたため、国分寺市にあった瓦の製造場が瓦を焼くために「瓦」が、どこに置かれたのかわらなくなった。この「瓦」が、どこに置かれたのかわらなくなった。この「瓦」が、どこに置かれたのかわらなくなった。</p> <p>（場所は「見学ガイド」を参照してください。）</p> <p>【拓本で利用した瓦の文字について】</p> <p>秋分寺の「文」、新井郡の「興」、比企郡の「企」、埼玉郡の「地」</p> <p>・・・今の埼玉縣にありました。</p> <p>豊島郡の「豊」、荏原郡の「荏」、多摩郡の「多」</p> <p>・・・豊島郡と荏原郡は東京都で23区あたり、多摩郡は東京都と神奈川県をまたいであり、国分寺市もここに含まれます。</p> <p>国分郡の「国」</p> <p>・・・今の神奈川県にありました。</p> <p>拓本はきれいにとれたの字が、拓本に貼って、おうちに持ちかえってね。</p> <p style="text-align: right;">国分寺市教育委員会 国分寺市立国分寺跡資料館</p> </div> </div>
------	---

<b>26</b>	<b>秋の子ども向けイベント「歴史なぞときクイズラリー」</b>
日時	令和4年10月29日（土）～11月6日（日）
場所	おたかの道湧水園内（武蔵国分寺跡資料館，日本多家住宅長屋門，園庭）
趣旨	子どもたちが武蔵国分寺跡に関連したクイズを解くことにより、楽しみながら歴史や文化財について学び理解を深めていくことを目的とする。

実施報告	<p>国分寺市教育7 DAYS及び東京文化財ウィーク2022企画事業の一つとして実施した。ゴールドンウィーク期間に実施した「なぞときビンゴ」とは異なり、今回は武蔵国分寺跡資料館及び長屋門などにヒントがあるクイズとし、展示物にまつわる9つのクイズに答えることにより1つの言葉を完成させるものとした。</p> <p>実施期間がおたかの道湧水園の無料公開期間中であること、秋の子ども向けイベントや11月3日の文化交流イベントと重なったことにより、多くの子どもたちが参加した。</p>
------	--

◆参加人数:計 105人 (人)

日にち	10/29 (土)	10/30 (日)	11/1 (火)	11/2 (水)	11/3 (木・祝)	11/4 (金)	11/5 (土)	11/6 (日)	計
子ども	5	12	2	0	39	1	7	26	92
大人	1	0	1	1	2	3	0	5	13
合計	6	12	3	1	41	4	7	31	105

<b>27</b>	<b>秋の子ども向けイベント「レプリカをつくろう」</b>
日時	令和4年11月6日（日） ①10:00～，②11:00～，③13:00～，④14:00～
場所	おたかの道湧水園園庭
趣旨	100周年記念事業の子ども向け普及イベントの一環として、ワークショップにより、将来の担い手である子どもたちが国分寺の歴史と文化を身近に感じ、史跡への理解を深めることを目

的とする。

#### 実施報告

国分寺市教育7DAYS及び東京文化財ウイーク2022企画事業の一つとして実施した。実施方法は夏休み子どもプログラムと同様であるが、夏に比べ気温が低いことからシリコン樹脂の硬化スピードとアクリル絵の具の乾燥に時間がかかった。このため、待ち時間に同時開催のクイズラリーの参加やボランティアによる資料館案内、レプリカの見本となった遺物の解説などを臨機応変に取り入れ、参加者が時間を持て余さないよう配慮した。当日は無料公開期間の最終日でもあり、親子連れで楽しんでいる様子がかがえた。

◆参加者数：18人



### 28 東京都公文書館との共催企画展「史料に見る国分寺のあゆみ～江戸時代の村々～」

日時 令和4年10月21日（金）～12月20日（火）

場所 東京都公文書館

趣旨 令和2年に市内泉町へ移転し、令和3年4月にリニューアルオープンした東京都公文書館と国分寺市教育委員会がお互いに所蔵している古文書や行政資料（公文書）等を活用して、江戸時代の国分寺市域の様子、武蔵国分寺跡の史跡指定の背景にかかる内容の企画展示を行う。

#### 実施報告

東京都公文書館との共催企画により実施した。

現在の国分寺市域は中世以来の古村である国分寺・恋ヶ窪村と、享保期の新田開発によって成立した戸倉新田ほか7ヶ村の計10ヶ村が明治22年に合併して形成された歴史をもっている。現在も江戸時代の村域ごとに生活風土が根付いており、様々な近世文書・絵図・地誌等の展示を通じて、市内の地域的特性を紹介した。また、江戸時代の武蔵国分寺の様子や史跡指定に至った行政文書を公開する特設展示コーナーも設け、史跡指定100周年行事に絡めた展示も行った。



29	武蔵国分寺跡史跡指定 100 周年記念講演会						
日時	令和 4 年 10 月 22 日（土） 10:00～16:30						
場所	いずみホール						
趣旨	令和 4 年 10 月 12 日は、武蔵国分寺跡が大正 11 年に国の史跡指定を受けてから 100 周年を迎える記念日である。このことを記念した式典を行うとともに、講演会及びシンポジウムを行い国分寺の歴史的価値を再確認する。						
実施報告							
<p>午前の部では、記念式典、ジュニア歴史優秀成績者に対する表彰式、武蔵国分寺跡が国史跡として指定された歴史的経緯にかかる基調講演、午後の部では、国分寺の伽藍配置の多様性をめぐって武蔵・下野・上総・相模 4 ケ国の国分寺の事例報告・記念講演と、関係者によるディスカッションを行った。当日は天候にも恵まれ、多くの市民等に御来場いただき、史跡指定 100 周年記念事業を盛大に催すことができた。</p>							
◆ イベント概要							
1 プログラム							
【午前の部】							
① 時間：午前 10 時～午前 11 時 30 分							
② 内容：・ 記念式典							
開会挨拶：井澤邦夫 国分寺市長							
来賓挨拶：田中政義 国分寺市議会議長							
来賓挨拶：渋谷啓一 文化庁文化財第二課史跡部門主任文化財調査官							
こくぶんじジュニア歴史検定表彰							
・ 坂詰秀一立正大学特別荣誉教授による記念講演							
➤ 「武蔵国分寺跡によせる心」							
【午後の部】							
① 時間：午後 1 時～午後 4 時 30 分							
② 内容：・ 須田勉元国土舘大学教授による基調講演							
➤ 「国分寺の伽藍と武蔵国分寺」							
・ 事例紹介・・・武蔵国分寺跡，下野国分寺跡，上総国分寺跡，相模国分寺跡							
・ 事例紹介登壇者によるディスカッション							
③ 閉会挨拶：古屋真宏 国分寺市教育長							
2 参加者							
① 参加人数：延べ約 262 人（招待者：51 人，一般参加：211 人）							
② 年代（回答者数 146 人）							
（人）							
中学生以下	～20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
3	5	4	10	24	29	56	15
③ 満足度（アンケート回答者数：146 人）							
（人）							

とても満足	満足	やや満足	どちらとも言えない	やや不満	不満	回答なし
58	62	13	5	3	1	4

### 3 Bホールの展示内容

①時間：午前9時30分～午後4時50分

②内容：・昨年度及び今年度に史跡指定100周年を迎えた諸国分寺跡のパネル展

・まちの魅力発信コーナー，書籍販売

#### 【書籍販売の内訳】

見学ガイド武蔵国分寺のはなし	400円	9冊	3,600円
国分寺市の文化財	400円	2冊	800円
国分寺市史セット	3,000円	3セット	9,000円
ふるさと国分寺のあゆみ	1,200円	1冊	1,200円
国分寺市史資料集セット	2,000円	1セット	2,000円
国分寺市の今昔	1,500円	2冊	3,000円
住田古瓦コレクション	700円	12冊	8,400円
合計			28,000円



### 30 本多公民館歴史講座（第1回）「本多雖軒と国分寺の地域医療」

日時 令和4年10月29日（土）  
13:30～15:30

場所 本多公民館

趣旨 東京都公文書館と教育委員会の連携企画展示（史料に見る国分寺のあゆみ～江戸時代の村々～）にちなみ、展示内容と関連のある内容の講演会を開催し、国分寺地域の歴史を振り返る。

#### 実施報告

東京都公文書館との共催の企画展示にちなみ、幕末から明治期の多摩地区において医療や書画において多彩な能力を発揮した本多雖軒に焦点を当てた歴史講座を行った。幕末から明治期において日々の診療や感染症治療に取り組んだ姿を、多くの古文書資料から解き明かす貴重な講演会となった。

#### ◆講座概要

①講師：工藤航平氏（国立歴史民俗博物館 准教授）

➤ 「本多雖軒と国分寺の地域医療」

②参加者数：51人（アンケート回答者50人）

20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
0	1	1	10	12	21	5	50

③満足度（この講座を通して本多雖軒と国分寺の地域医療について学ぶ事ができたか）

満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
27	15	2	0	6

**31 本多公民館歴史講座（第2回）「玉川上水と国分寺市内の分水」**

日時	令和4年11月12日（土） 13:30～15:30
場所	本多公民館
趣旨	東京都公文書館と教育委員会の連携企画展示（「資料に見る国分寺のあゆみ～江戸時代の村々～」）にちなみ、展示内容と関連のある内容の講演会を開催し、国分寺地域の歴史を振り返る。

実施報告

現在の国分寺市の発展は、江戸時代にひかれた玉川上水からの分水が当時の村々の生活を支えてきたことによる。このため、東京都公文書館との共催企画展示にちなみ、玉川上水及び市内分水についての理解を深めるための歴史講座を行った。当日は古文書等により当時の江戸の状況、玉川上水開削の経緯、国分寺市域の分水利用などについて興味深い話を聞くことができた。

◆講座概要

①講師：白井哲哉氏（筑波大学図書館情報メディア系教授）

➤ 「玉川上水と国分寺市内の分水」

②参加者数：87人（アンケート回答者75人）

20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
1	2	1	8	21	36	6	75

③満足度（この講座を通して玉川上水と国分寺市内の分水について学ぶ事ができたか）

満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
35	20	9	2	9

**32 観光考古学会パネルディスカッション「武蔵国分寺跡の保存と観光活用」**

日時	令和4年11月19日（土） 13:00～16:40
場所	いずみホール
趣旨	武蔵国分寺跡を主なテーマとして、文化遺産と観光振興の関係性を軸に文化遺産をどのようにして守り活用しながら後世に伝えていくかということについて、専門家の意見を交えてパネルディスカッションを行い武蔵国分寺跡の保存と観光活用に対する理解を深める。

実施報告

観光考古学会は遺跡を観光資源として捉え活用の方策について考古学を軸に関連分野とともに総合的に考えていくことを目的にして発足した団体である。当日のプログラムは3部構成で行い、国分寺跡のこれ

までの整備の経緯，崖線に隣接した豊かな自然環境との共存，今後の観光活用の展望等について，国分寺市と深いつながりのある府中市をはじめ，多くの有識者等による発表及びパネルディスカッションにより武蔵国分寺跡の観光資源としての活用について理解を深めた。

◆イベント概要

1 プログラム

(1) 開会挨拶：坂誥秀一 観光考古学会会長

来賓挨拶：井澤邦夫国分寺市長，高野律雄府中市長，馳浩石川県知事（メッセージ）

(2) パネルディスカッション

第1部『遺構の保存と観光』

長谷川渉（観光考古学会考古学部長兼観光部会長）

➢ 「武蔵国分寺跡における史跡整備の経過を概観する」

中道誠（国分寺市教育委員会ふるさと文化財課文化財保護係）

➢ 「武蔵国分寺跡の発掘調査と史跡整備」

第2部『遺跡の環境と保全問題』

福嶋司（東京農工大学名誉教授，国分寺市文化財保護審議会副会長）

➢ 「国分寺史跡の緑の管理について」

樋渡達也（武蔵野文化協会理事長）

➢ 「遺跡の環境と保全問題」

第3部『武蔵国分寺跡の観光活用と展望』

依田亮一（国分寺市教育委員会ふるさと文化財課史跡係長）

➢ 「国分寺市の取り組み」

江口桂（府中市文化スポーツ部ふるさと文化財課長）

➢ 「武蔵国分寺跡の活用と国分寺・府中の観光振興」

坂誥秀一（観光考古学会会長，立正大学特別栄誉教授，国分寺市文化財保護審議会会長）

➢ 「武蔵国分寺跡の観光活用の展望」

(3) 閉会挨拶：那波一郎観光考古学会副会長

2 参加者 174人（会場121人，オンライン53人）

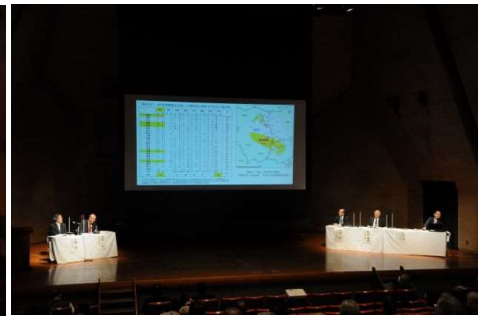


33	武蔵国分寺跡史跡指定・住田正二先生生誕100周年記念シンポジウム「武蔵国分寺の造営と文字瓦」
日時	令和4年12月11日（日） 13:00～16:45



場所	いずみホール																
趣旨	文化財資料展示室にて展示されている極めて学術性が高い古瓦は、故住田正一氏が収集し、2005年にご子息である故住田正二氏が理事長を務めた公益財団法人交通研究会より寄託されたものである。武蔵国分寺跡が国指定史跡となった令和4年は住田正二氏の生誕100周年でもあるため、この2つの100周年を記念しシンポジウムを開催する。																
実施報告																	
<p>東京都副知事も務められた故住田正一氏（1893～1968）は、海事史・法制史学者であり、また古瓦研究者として国分寺瓦の研究をライフワークとしていた。また、その御子息の故住田正一氏（1922～2017）も正一氏とともに国分寺瓦を収集し、その極めて学術性の高い国分寺瓦は、関係資料とともに2005年に住田正二氏が理事長を務める公益財団法人交通研究協会から国分寺市へ寄託され、現在、国分寺市文化財資料展示室にて公開されている。</p> <p>当日のシンポジウムの内容は、武蔵国分寺出土瓦を特徴づける「文字瓦」に焦点をあて、書かれた文字が武蔵国内にあった郡名・郷名が中心であることから、武蔵国分寺の造営に際して大量に必要とされた瓦が、租税として強制的に貢納されたものか、自主的な寄進（知識）によるものか、様々な見地から議論を深めた。</p> <p>◆イベント概要</p> <p>1 プログラム</p> <p>(1) 開会挨拶：井澤邦夫 国分寺市長 住田親治 公益財団法人交通研究協会理事長 祝 辞：坂誥秀一 立正大学特別荣誉教授・国分寺市文化財保護審議会会長</p> <p>(2) 基調講演 佐藤 信（東京大学名誉教授・国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会委員） ➤ 「古代寺院の文字瓦と武蔵国分寺」 基調報告 有吉重蔵（元国士舘大学講師・住田古瓦考古学研究支援委員会委員） ➤ 「武蔵国分寺の瓦生産と文字瓦」 基調報告 依田亮一（国分寺市教育委員会ふるさと文化財課史跡係長） ➤ 「武蔵国分寺出土の文字瓦」</p> <p>(3) シンポジウム 「武蔵国分寺の造営と文字瓦」 登壇者：佐藤 信／有吉重蔵／依田亮一 司 会：大脇 潔（元近畿大学教授・住田古瓦考古学研究支援委員会副委員長） 河野一也（毛野考古学研究所主幹研究員・住田古瓦考古学研究支援委員会委員）</p> <p>(4) 閉会挨拶：古屋真宏 国分寺市教育長</p> <p>2 参加者 144人（一般116人，市職員・関係者28人）</p> <p>3 アンケート結果（アンケート回収数：64，回収率：52.6%）</p> <p>①年代</p> <table border="1"> <tr> <td>～20代</td> <td>30代</td> <td>40代</td> <td>50代</td> <td>60代</td> <td>70代</td> <td>80代</td> <td>不明</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>13</td> <td>17</td> <td>25</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> </table> <p>②満足度</p>		～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	不明	3	0	2	13	17	25	3	1
～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	不明										
3	0	2	13	17	25	3	1										

満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	不明
35	22	3	0	0	4



**34 光公民館歴史講座「二五穴と胎内堀の技術」**

日時	令和4年12月17日（土） 13:30～16:00
場所	光公民館 視聴覚室
趣旨	中藤新田分水跡は江戸時代末期から明治初頭にかけて掘られた国分寺の発展に欠かせない歴史遺産であり、令和4年9月30日に市指定重要文化財に指定された。このことを記念する講演会を実施し、古代から現代まで続く国分寺市の歴史への理解をさらに深める。

**実施報告**

中藤新田分水跡は、当時の社会状況に翻弄されながらも、胎内堀という特殊な工法を用い、自らの飲み水確保のため苦難の末工事を成し遂げた貴重な土木遺産である。

胎内堀はトンネル状の水路という希少な形態の水路であるが、千葉県君津地方に現存する「二五穴」（にごあな）は今でも使われている現役の灌漑用水路である。お招きした講師ご自身が取り組まれた絵葉書・古写真等の資料調査や関係者の聞き取り調査を基に、明治時代の人々と地域の自然との関わりや生活についての講演があり、地域の農業と暮らしを支えた先人たちの苦勞と技術を学んだ。

**◆講座概要**

①講師：島立理子（千葉県立中央博物館企画調整課長）

➤ 「房総丘陵の用水路 二五穴」

②参加者数：32人（うちアンケート回答者27人）

40代	50代	60代	70代	80代	計
2	4	7	9	5	27

③満足度：

満足	やや満足
15	12

**35 令和4年度文化講座「思いを描く天平の華 武蔵国分寺のはなし」（市民生活部文化振興課主管課事業）**

日時	令和4年12月25日（日）
----	---------------

	10:30～12:00
場所	Cocobunjiプラザ リオンホール
趣旨	文化振興課の主管課事業である文化講座において、史跡指定 100 周年となる武蔵国分寺に係る講演を行うことで更なる気運醸成を図る。

実施報告

史跡指定 100 周年にちなみ、文化振興課の主管課事業である文化講座において武蔵国分寺が建立されるに至った当時の世相・政治情勢、建物の概要・趨勢などを分かりやすく講義し好評を得た。

◆講座概要

①講師：ふるさと文化財課 増井文化財保護係長

➤ 「武蔵国分寺のはなし」

②参加者：75 人 (アンケート回収数 68 人)

	10 才 未満	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代 以上	不 明	計
市内	0	0	1	1	1	6	17	19	7	0	52
市外	0	0	0	0	1	6	2	3	3	0	15
不明	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
合 計	0	0	1	1	2	12	20	22	10	0	68

③満足度

よかった	よかった	ふつう	よくなかった	無回答
54	11	1	0	2

**36 第 48 回東京都遺跡調査・研究発表会**

日時	令和 5 年 1 月 22 日 (日) 10:00～16:35
場所	いずみホール
趣旨	毎年東京都内の自治体で行われる東京都遺跡調査・研究発表会が、史跡指定 100 周年となる今年度は国分寺市が会場市となった。そこで、武蔵国分寺跡の保存整備に縁のある有識者による公開講演と、近年の武蔵国分寺跡における発掘調査の成果や、昨年 9 月に市の重要史跡として文化財指定した西町の胎内堀の発掘成果を事例報告し、参加者等の史跡及び文化財への興味・関心を高める。

実施報告

近年、東京都内で注目を集めた旧石器時代から近代までの 9 遺跡（紙上発表 1 遺跡含む）の調査成果について、それぞれの団体の担当者より発表があった。講演会においては、駒澤大学名誉教授で国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員でもある酒井清治先生に、史跡の保存にあたり大きな役割を果たした郷土史研究者である稲村坦元氏の功績について御講演をいただいた。また、国分寺市では、近年の武蔵国分僧寺跡（北方・推定中院地区）における発掘調査の成果、令和 4 年 9 月 30 日に市の重要史跡として指定された西町の中藤新田分水跡（胎内堀）についての発表を行った。

◆イベント概要

1 プログラム

- 【開会挨拶】 倉富 貴久 東京都教育庁地域教育支援部管理課課長
- 【発表1】 東久留米市川岸遺跡 佐藤悠登（東京都埋蔵文化財センター）
- 【発表2】 北区十条台遺跡群南橋遺跡 山崎太郎（東京都埋蔵文化財センター）
- 【発表3】 足立区花畑遺跡 増田静香（足立区伊興遺跡公園展示館）
- 【発表4】 板橋区成増天神脇遺跡横穴墓群 小山侑里子（板橋区教育委員会）
- 【開催市挨拶】 古屋 真宏 国分寺市教育委員会教育長
- 【公開講演】 酒井清治 駒澤大学名誉教授
- 「武蔵国分寺跡の史跡指定に尽力した郷土史研究者『稲村担元』の事績」
- 【発表5】 国分寺市武蔵国分僧寺跡－北方・推定中院地区－ 依田亮一（国分寺市教育委員会）
- 【発表6】 江戸川区上小岩遺跡 高橋亮（江戸川区教育委員会）
- 【発表7】 新宿区納戸町遺跡 尾田識好（東京都埋蔵文化財センター）
- 【発表8】 国分寺市中藤新田分水跡（胎内堀） 寺前めぐみ（国分寺市役所）
- 【閉会挨拶】 鈴木 徳子 東京都教育庁地域教育支援部管理課課長代理
- （紙上発表） 港区国史跡旧新橋停車場跡及び高輪築堤跡 平河内毅（港区教育委員会）

2 参加者 175人（来賓8人，一般167人）



37	並木公民館歴史講座「玉川上水と『上水記』」
日時	令和5年3月12日（日） 13:00～16:00
場所	並木公民館
趣旨	並木公民館の近くには玉川上水・砂川用水および、昭和39年に市重要文化財として文化財指定した「川崎・伊奈両代官謝恩塔」（妙法寺蔵）がある。謝恩塔は長い間風雨に晒されてきたため、表面に刻まれた文字が剥落するなど石材の劣化の進行が著しく、令和4年度に修復工事を施工された。そこで、玉川上水に関連する講座にあわせ、修復工事が完了した謝恩塔を市民へ公開することで、文化財への関心を高める。
実施報告	国史跡玉川上水は、工事が着手された承応3年頃の同時代史料が殆ど残されておらず、どのように工事が行われたのか謎が多い水路である。東京都水道歴史館には、江戸時代の玉川上水の様子を克明に記録し

た『上水記』（都指定文化財）をはじめ、江戸市中の水道の歴史関連資料を多く所蔵されている。当日は同歴史館の職員を講師としてお招きし、江戸の水道事情、『上水記』に書かれた玉川上水、武蔵野の新田開発を奨励した川崎平右衛門らの事績を御講演していただいた。

また、現在の国分寺の繁栄を支えた中心人物である川崎平右衛門と伊奈半左衛門の治政に対して、農民が感謝の念を込めて造立した、妙法寺の「川崎・伊奈両代官謝恩塔」は、令和4年度に専門業者による修復が行われ、2月末に原位置に復旧された。当日は、玉川上水にかかる歴史講座と修復された塔のお披露目を併せて行うとともに、現地においては摩耗した文字の3D測量データをパネルにして説明を行い、貴重な市内文化財を身近に感じていただくことができた。

◆講座概要

①講師：金子 智（東京都水道歴史館 企画調査責任者）

➤ 「玉川上水と『上水記』」

②参加者数：45人（アンケート回答者）

40代	50代	60代	70代	80代	計
	6	16	19	4	45

③講座の満足度：

満足	やや満足	未記入
35	7	3

